

令和元年度 学力向上に係る効果的な取組事例（主体的・対話的で深い学び）

# 「読む力を高め、自分の思いや考えを伝え合うことのできる 児童の育成」

## 三郷市教育委員会・三郷市立早稲田小学校

### 研究の内容

- 1 基礎的、基本的な知識・技能の習得を図る授業展開 →早稲田スキル、読みを深める指導の工夫
- 2 意欲を促す学びの設定 ～早稲田イキイキ学習～ →導入の工夫、課題の精選
- 3 表現力を高めるための工夫 →伝え合い活動の充実、発問シートの活用

### 具体の手立て

#### 1 読む力を高める取組

##### (1) 早稲田スキル（説明文の読解力）の活用

各学年で身に付けたい基本的な力や技能をしっかりと決めておき、各学年で何を指導すればよいのかひと目で分かるようにした。

##### (2) 新聞ワークシートの実施

ワークシートを活用し、ねらいを持って新聞を使った学習に取り組んだ。

読み取りや自分の考えを書き込むことができるようになっており、情報処理能力、思考・判断・表現力を高めることができるようにした。

##### (3) 読書のまち三郷推進資料「言葉の力」の視写・音読

正確に、速く書く技能が身に付くのはもちろん、文章のつながりを意識して読む力もつけることをねらいとしている。

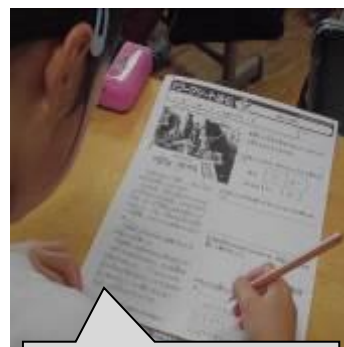
めざす児童像	低学年	中学年	高学年
読む力	書いている内容の大意を読み取り、自分の表現に生かせる子。	文章構成をとらえ、読み取った内容について感想をもてる子。	要旨をとらえ、自分の考えを再構成できる子。
身に付けさせたい力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「問い」と「答え」の文を自分で見つける。</li> <li>○読者の疑問をつきまわして、「はじめて」「中」「おわり」の構成に気づく。</li> <li>○学習したことを、自分の表現に生かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○読解のよさを自分から、読者のせとまりをとらえる。</li> <li>○読解の目的を自分から、文章の構成をとらえる。</li> <li>○読者の考えを自分から、自分の表現に生かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○要旨を引くことができる。</li> <li>○読解を受けて、自分の思いや考えをとらえる。</li> <li>○自分の考えを表現し、要約する。</li> </ul>
読み取らせる	1 「問い」と「答え」の文に注目して「問い」と「答え」をまとめる。	a. 「問い」に対する「答え」をまとめる。 b. 読者の疑問や疑問の解決に気づく。	a. 読者の疑問や疑問の解決に気づく。 b. 読者の疑問や疑問の解決に気づく。 c. 読者の疑問や疑問の解決に気づく。
	2 読者の疑問をとらえ、要約をつくる。 a. 読者の疑問・疑問の解決に注目する。 b. 内容を比較してまとめる。 c. 「問い」と「答え」の文を作る。	a. ノードやキーワードをまとめる。 b. ノードやキーワードをまとめる上に、要約を組み合わせる。 c. 読者の疑問や疑問の解決に気づく。 d. 「問い」の文を作る。	a. 読者の疑問や疑問の解決に気づく。 b. 読者の疑問や疑問の解決に気づく。 c. 読者の疑問や疑問の解決に気づく。
	3 読者の疑問や疑問の解決に注目して、読者の疑問や疑問の解決に注目する。 a. 「はじめて」「中」「おわり」の構成に気づく。 b. 「はじめて」「中」「おわり」の構成に気づく。	a. 読者の疑問や疑問の解決に気づく。 b. 「はじめて」「中」「おわり」の構成をとらえる。 c. 文章構成に注目して、要約する。	a. 「問い」と「答え」の文をまとめる。 b. 「問い」と「答え」の文をまとめる。 c. 「問い」と「答え」の文をまとめる。



問題を解いた後は声に出して音読をする時間も取り、読んだものを自分の知識としても蓄えています。



真剣な表情で取り組み、子供の集中力もついてきました。



新聞ワークシートの実践。

## 2 魅力ある単元のゴール設定

子供たちが主体的に学習をするために、単元の導入で興味・関心を引きつける必要がある。導入において、単元のゴールイメージを考えていくことで、学習の見通しを持たせることができる。また、それが子供たちにとって魅力あるものになれば、意欲の向上にもつながる。



1年生の「じどう車しらべ」では、単元のゴールを『「すごい！」がわかる自動車ずかんをつくろう』とした。つくりの複雑な乗り物をもっともっと調べてみたいという子供の興味・関心を引くものとなった。



6年生の「時計の時間と心の時間」では、単元のゴールを『宿題はかどり法』を考えようとした。子供にとっては、とても魅力あるものになり、本単元だけでなく、その後の宿題に取り組む意欲の向上にもつながった。

## 3 伝え合う時間の確保

授業の中で「子供同士の話し合い」の時間を設けるようにした。その際、お互いの意見・考えを伝え合うことができるように、発達段階に応じた学習形態で活動を行わせた。

また、ペアトークだけでなく、グループによる話し合い、それぞれが自席を離れていろいろな人と交流する型（旅人型）も話し合いのめあてにそって選択するようにした。



グループでの話し合い



ペアトーク

主体的・対話的な  
授業展開を実現する



自分の考え・意見を持つことが大切



基礎・基本  
読む力！

### 成果と課題

#### (1) 成果

- 新聞ワークシートや視写の活動から文章を読む機会が増え、読むことに抵抗がなくなってきた。
- 授業において教員も子供に何を学ばせ、どんな言語活動にしたらよいか、見通しをもって計画的に行うことができた。子供も見通しをもって学習できることで意欲の向上にもつながってきている。
- 板書を正確に、早く書くことができる子供が増えている。

#### (2) 課題

- 伝え合う時間では、自分の意見をしっかりと持った子供だけが進めてしまうことがある。考えをなかなか持てない子供のための個別支援や、より充実した話し合い、交流にする手立ても今後考えていきたい。